別記第８号様式（第１４条関係）

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区東砂3-30-11
施設名	みらいく東砂園

１　活動のテーマ

〈テーマ〉

運動遊び

〈テーマの設定理由〉

普段の保育の中で、運動遊びを通して主体的に動く子どもたちの姿が見受けられた。より充実した運動環境を用意することで、「こうしたらどうなる？」「こっちならどう？」という自由な発想を大切にし、子どもたちが準備から運動遊び、片付けまで自分で考え、さらに探求心やフィジカルリテラシーを育てていける良い機会だと考え設定した。

２　活動スケジュール

令和７年8月～令和８年3月
4歳児、5歳児：外部の専門家からの実演研修、座学研修を毎月1回取り入れ、子どもの興味関心から運動遊びを展開する方法を学んだ。月1回、専門家による実演を交えた研修を受けた翌日からは積極的に日常の中に、学んだ運動遊びを取り入れるように意識し実践していった。
8月、9月：バランス系の動き（たつ、まわるなど）
10月、11月、12月：操作系の動き（なげる、うつなど）
1月、2月、3月：力試し系の動き（ひく、おすなど）

３　活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

巧技台、鉄棒、ミュージックパッド、跳び箱、タオルなどを活用して、お部屋の中に環境を作った

4　探究活動の実践

〈活動の内容〉

子ども達が日頃興味を持つ運動に対して、巧技台や鉄棒、跳箱をセッティングして、自由に探索できるようにした。その中で、子どもたちが繰り返し取り組む様子や「やってみたい」という声を拾い、日常的な素材（タオル等）を掛け合わせることで、動作の難易度や種類を子供自身がコントロールできる環境を変化させていった。。保育者はあえて「正解」を伝えないように意識し、「どうやったら良いと思う？」という子供の「工夫」を引き出す関わりに徹することで、運動を通じた探究活動の充実を図った。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

初めは巧技台の使い方が分からず、その周りを走り続けていた。巧技台に興味を持って遊ぼうとしていた児も走っている児につられて走り出し、巧技台で遊ぶことがほとんどない状態だった。保育者が巧技台で遊んで見せたり、その姿に興味を持った児が遊んでいる姿を見て「面白そう！」「どうやってやったの？」「入れて！」と巧技台で遊ぶ児が少しずつ増えていった。保育者は見本を見せて模倣させるのではなく、自然に巧技台に興味を持つよう工夫しながら一緒に遊んでいった。慣れてくると「こういうのどう？」と自分で考えた動きを披露したり、「これをこうしたら？」と別のエリアにあった用具と組み合わせて遊び方を編み出したりと工夫を凝らして遊んでいた。

5　振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

子どもの発想力はとても豊かで、危険も顧みず巧技台の様々な使用方法を編み出し、一見すると難しそうな使い方でも積極的に挑戦してみようという姿勢が見られた。その遊び方から保育者もオーソドックスな使い方をするだけでなく、より楽しめる・遊び込める使い方を子どもと一緒に考え、一緒に楽しむことができるようになった。１つの動作が複数の運動に繋がることも学んだ。鉄棒の際に腕の力で自分の体を引き寄せるために“引く”動作を綱引き遊びで取り入れる、といった動きを分解して必要な遊びを組み立てる思考も保育者に身に付いたように感じる。